

2016年1月15日

野村アセットマネジメント株式会社

【ご参考資料】



「野村日本企業価値向上オープン
(円投資型)/(米ドル投資型)」の基準価額の動きについて

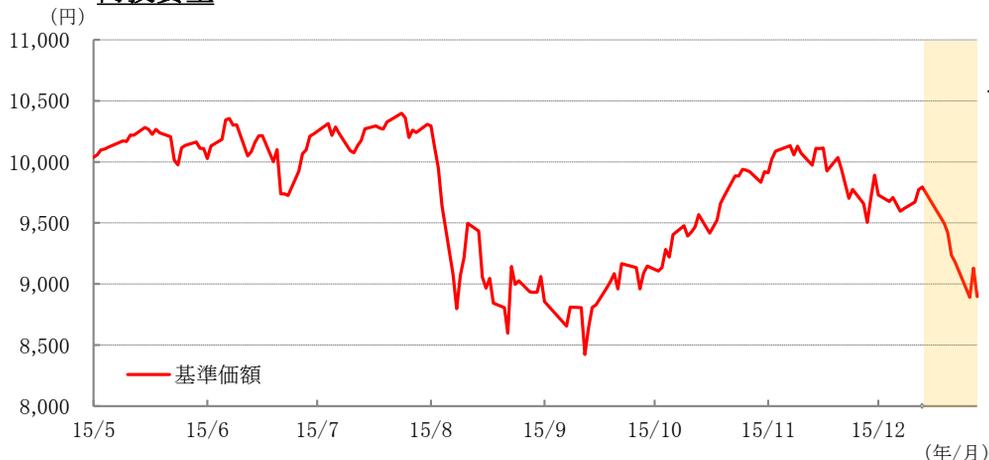
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「野村日本企業価値向上オープン(円投資型)/(米ドル投資型)」(以下、ファンド)の基準価額は、グローバル景気に対する不透明感が増したことなどを背景に下落し、2016年1月14日現在、円投資型:8,897円(年初来騰落率-9.2%)、米ドル投資型:8,674円(年初来騰落率-11.1%)となりました。

以下に、基準価額の動きをご報告し、次ページ以降で今般の下落の背景と今後の見通しについてご説明いたします。

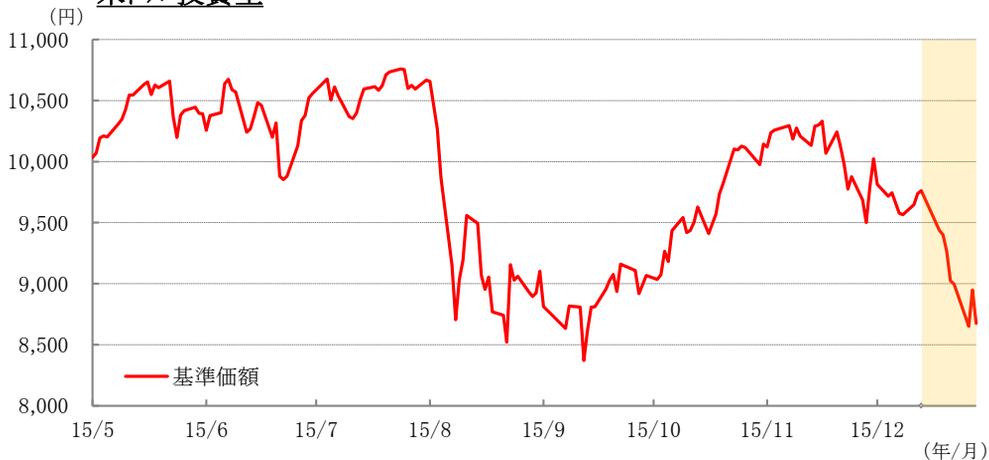
1.ファンドの基準価額の推移(期間:2015年5月18日(設定日)~2016年1月14日、日次)

円投資型



年初来(2015年12月30日
~2016年1月14日)の
騰落率:-9.2%

米ドル投資型



年初来(2015年12月30日
~2016年1月14日)の
騰落率:-11.1%

(注)上記期間において分配金実績はありません。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

——— 上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 ———

当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、株式等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

2. 基準価額下落の背景

2016年に入ってから日本株式市場の大幅下落については、主に以下のような背景があると考えています。

① 中国の人民元安、原油安が進行したことによる世界経済の先行き懸念の広がり

中国経済に対する懸念がくすぶる中、1月7日に中国人民銀行(中央銀行)は人民元の売買の基準値を約4年10ヵ月ぶりの元安水準に設定しました。中国からの資本流出懸念が高まるとともに、景気減速懸念が再燃しました。中国の景気減速が他の新興国経済にも波及するとの見方が広がる中、1月12日のWTI原油先物価格は、一時、約12年ぶりに1バレル=30米ドルを割り込みました。これにより、過度な原油安が世界経済を下押しする可能性が警戒され始めました。

② 地政学的リスクの高まり

1月3日にはサウジアラビアがイランとの国交断絶を発表し、1月6日には北朝鮮が水爆実験の実施を発表するなど、年初から地政学的リスクに直面することになりました。これにより、世界の金融市場に動揺が広がりました。

③ 世界金融市場におけるリスク回避姿勢の高まりと円高の進展

前述のような流れの中、世界の金融市場で投資家が運用リスクを回避する動きを強めました。為替市場では世界的なリスク回避の動きから、安全資産とされる円が買われました。

< TOPIXの推移 >

期間: 2014年12月30日～2016年1月14日、日次



< 米ドル(対円レート)の推移 >

(円/米ドル) 期間: 2014年12月31日～2016年1月14日、日次



(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、株式等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

3.今後の見通し

世界金融市場の動揺の悪影響は受けるものの、ROE向上企業の優位性に着目

ファンドは、「企業価値向上が見込まれる日本企業に投資する」という運用哲学で運用をしています。市場平均に比べて小売業や食料品などの投資比率が高く(2015年12月末現在)、内需型のファンド特性を有しているため、市場が懸念しているグローバル経済の悪化からの影響については相対的に耐性のあるファンドであると考えています。現預金などを相対的に多く保有している財務体質が良好な企業に投資しているため、今後は株主還元強化の動きにも期待しています。具体的には、3月決算企業について期末前後の増配発表、株価下落を受けた決算発表時における自社株買いの発表などが考えられます。外部環境は不透明感が増していますが、ファンドで保有するROE(自己資本利益率)向上の努力をしている企業群は相対的に良好なパフォーマンスが期待できると考えています。

今後は人民元や中東情勢の動向を見ながら、有望な投資対象銘柄の選別に注力

今後の注目点については、今般の市場下落の背景である、人民元や中東情勢の動向が挙げられます。特に、人民元は、昨夏に続き2度目の元安加速であり、その動向と政策当局の対応に注目しています。現在、株式市場はグローバル経済悪化に対する懸念から調整色を深めてきていますが、今後予想される企業収益の落ち込みなどの悪材料をある程度織り込んできていると考えています。今後は、人民元や中東情勢が落ち着きを見せ始め、米国の利上げとアベノミクスの経済政策が着実に実行されることで、円相場も再び円安に回帰し、日本株式市場も回復に向かっていくと考えています。

このような市場全体が下落する局面では、個別銘柄による格差は生じにくいと中期的な観点から有望な銘柄の株価も大きく下落しています。したがって有望な投資対象銘柄を選別して投資を行なう良い機会であると考えています。

今後とも「野村日本企業価値向上オープン(円投資型)/(米ドル投資型)」をご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

以上

____ 上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。 _____
 ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

<当資料で使用した指数について>

●東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下「(株)東京証券取引所」という。)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は(株)東京証券取引所が有しています。(株)東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

【ファンドの特色】

- 信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。
- 主要投資対象

【円投資型】

わが国の株式を実質的な主要投資対象*とします。

【米ドル投資型】

わが国の株式を実質的な主要投資対象*とし、選択権付き為替予約取引等の外国為替に関するデリバティブ取引を主要取引対象とします。

・株価指数先物取引および外国為替予約取引等を活用する場合、短期有価証券ならびに短期金融商品等に投資する場合があります。

※「実質的な主要投資対象」とは、「野村日本企業価値向上オープン マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。

- ファンドは、円建て資産について為替取引を行わない「円投資型」と、円建て資産について、選択権付き為替予約取引等の外国為替に関するデリバティブ取引を活用し、米ドルへの投資効果を追求する「米ドル投資型」があります。
- わが国の株式の中から、企業価値向上が期待される銘柄を選別して投資することにより、中長期的な値上がり利益の獲得を目指します。
- 株式への投資にあたっては、独自の手法によって選定された企業価値向上の余地があると思われる銘柄群から、株主価値に対する経営姿勢についての評価や企業の調査・分析等を中心とした「ボトムアップアプローチ」に基づいて、組入銘柄の選定、ポートフォリオの構築等を行なうことを基本とします。
- 円投資型
 - ◆ 株式の実質組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。
- 米ドル投資型
 - ◆ 円建て資産について、選択権付き為替予約取引等の外国為替に関するデリバティブ取引を活用し、米ドルへの投資効果を追求します。なお、外国為替予約取引等を活用する場合があります。
 - ・ 信託財産の純資産総額に対する米ドルのエクスポージャーの比率は、原則として高位を維持することを基本とします。
 - ・ 株式の実質的なエクスポージャーを高位に保つため、株価指数先物取引を活用する場合があります。
- ファンドは「野村日本企業価値向上オープン マザーファンド」を通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。
- 「円投資型」「米ドル投資型」間でスイッチングができます。
- 原則、毎年3月23日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行いません。

分配金額は、分配対象額の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。

* 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

【投資リスク】

各ファンドは、株式等を実質的な投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により基準価額が下落することがあります。また、米ドル投資型は、外国為替に関するデリバティブ取引を行ないますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 平成38年3月23日まで(平成27年5月18日設定)
- 決算日および収益分配 年1回の決算時(原則、3月23日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の基準価額
- ご購入単位 1万口以上1口単位(当初元本1口=1円)
または1万円以上1円単位
※ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 ご換金申込日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- スイッチング 「円投資型」「米ドル投資型」間でスイッチングが可能です。
*販売会社によっては、スイッチングのお取扱いを行わない場合があります。
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時(スイッチングを含む)および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、少額投資非課税制度などを利用した場合には課税されません。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。
詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

(2016年1月現在)

◆ご購入手数料	ご購入価額に3.24%(税抜3.00%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 <スイッチング時> 販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 *詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に下記の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。 【円投資型】 年1.35%(税抜年1.25%) 【米ドル投資型】 年1.3608%(税抜年1.26%)
◆その他の費用・手数料	組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額 (ご換金時、スイッチングを含む)	1万口につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に
応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

◆お申込みは

野村證券

商号:野村證券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号
加入協会:日本証券業協会/一般社団法人日本投資顧問業協会/
一般社団法人金融先物取引業協会/
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

◆設定・運用は

野村アセットマネジメント

商号:野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
加入協会:一般社団法人投資信託協会/
一般社団法人日本投資顧問業協会

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先:野村アセットマネジメント株式会社

★サポートダイヤル★ ☎0120-753104
(受付時間)営業日の午前9時~午後5時

★インターネットホームページ★
<http://www.nomura-am.co.jp/>

★携帯サイト★
<http://www.nomura-am.co.jp/mobile/>



当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、株式等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。